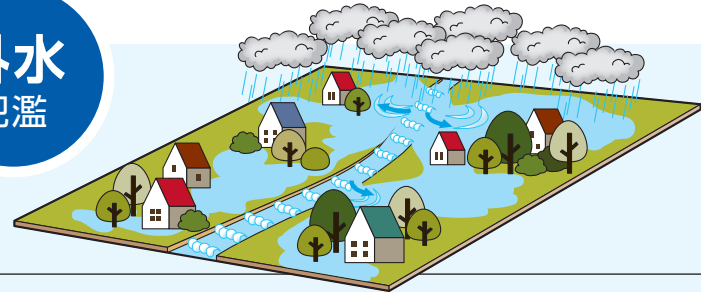


大雨などにより、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが起因となり、大きな災害に発展する場合があります。
事前にその災害のメカニズムを理解し、身近に起こりえる災害に対応しましょう。

川の氾濫

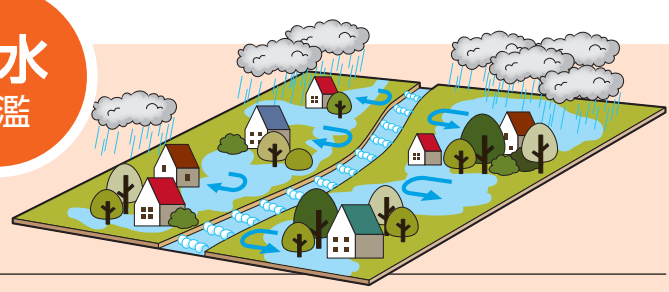
雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

外水氾濫



大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる。氾濫が起きると一気に水かさが増すため、最大の注意が必要。

内水氾濫



その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。

土砂災害

※下記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるといものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

土砂災害警戒情報は、大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、土砂災害発生の危険度がさらに高まったときに熊本県と熊本地方気象台が共同で発表しています。

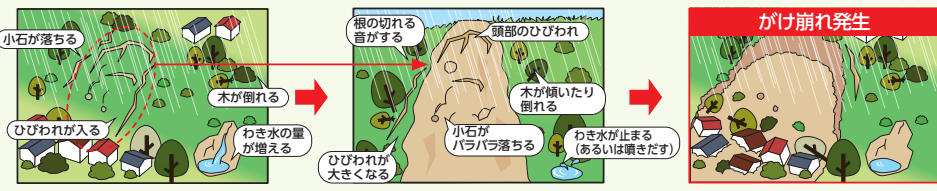
土砂災害の危険がある地域にお住まいの方は、特に早めの避難が重要ですので、土砂災害警戒情報を避難の参考にしてください。

土砂災害警戒情報が発表されていない場合、下の図のような土砂災害の前兆に気づいた場合には、直ちに周りの人と安全な場所に避難し、山都町役場までご連絡ください。



がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。普段から気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策。

大雨注意報

大雨による土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想したときに発表

大雨警報

大雨による重大な土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想したときに発表
特に警戒すべき事項を表題に明示して「大雨警報(土砂災害)」、「大雨警報(浸水害)」又は「大雨警報(土砂災害、浸水害)」のように発表

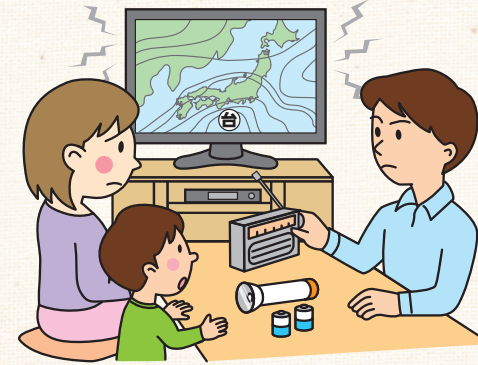
土砂災害警戒情報

降り続く大雨のため、土砂災害警戒区域等で命に危険が及ぶ土砂災害がいつ発生してもおかしくない非常に危険な状況であると予想したときに発表
危険な場所から全員避難!!

大雨特別警報

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合に発表
特に警戒すべき事項を表題に明示して「大雨特別警報(土砂災害)」、「大雨特別警報(浸水害)」又は「大雨特別警報(土砂災害、浸水害)」のように発表
雨が止んでも重大な土砂災害等のおそれが残っている場合には警報を継続

まずは、確実な情報が大事
その次に迅速な対応



記録的短時間大雨情報とは・・・数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測したり、解析したりしたときに、各地の気象台が発表します。熊本県区域の発表基準は、1時間雨量110mmとなっています。

雨の強さと降り方

時間雨量 (mm)	10以上~20未満	20以上~30未満	30以上~50未満	50以上~80未満	80以上~
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る(ゴゴゴと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる

風の強さと吹き方

平均風速 (m/秒)	10以上~15未満	15以上~20未満	20以上~25未満	25以上~30未満	30以上~
予報用語	やや強い風	強い風	非常に強い風	猛烈な風	
人への影響	風に向かって歩かなくなる傘が飛ばない	風に向かって歩かなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険	何かがつかまっていなくなり立ってられない	飛来物によって負傷するおそれがある	屋外での行動は極めて危険

台風の大きさと強さ

台風は、毎年のように日本に襲来し、きわめて大きな災害をもたらすことがあります。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速 15m/秒 以上の半径	強さ	最大風速
大型 (大きい)	500km 以上~800km 未満	強い	33m/秒 以上~44m/秒 未満
超大型 (非常に大きい)	800km 以上	非常に強い	44m/秒 以上~54m/秒 未満
		猛烈な	54m/秒 以上

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。発生の予測は困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビ、携帯電話・PCなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるように準備をする。

つねに気象情報には、注意しておきましょう!

